

令和4年3月18日

田尻町教育委員会

教育長 馬野 智俊 様

田尻町保幼小中一貫教育検討委員会

会長 岩野 清美

田尻町の教育環境について（答申）

令和3年11月26日付け田教指第282号で諮問のあった標記について、
別紙のとおり答申します。

答 申 書

諮問事項

田尻町の教育環境について

『地域と共にある保幼小中一貫教育』を推進していくために、老朽化した校舎の建替えも見据えた対応が求められてくる中、施設の位置を含めた教育環境はどうあるべきか。

諮問についての答申

『地域と共にある保幼小中一貫教育』を推進していくためには、地域との交流を促進し、一貫した教育が実施できる環境を整えることが必要である。

地域との交流を促進するためにも、町の中心である現地で建て替えることが望ましい。ただし、津波等による災害対策を十分に検討したうえで建て替えることが望まれる。

答申理由

田尻町は、地域づくりの核となる教育を目指しており、『地域と共にある保幼小中一貫校』の設立に取り組んでいる。0歳から15歳までの学びの連続性を重視し、また、様々な交流を進めることにより、心豊かでたくましい「田尻の子」の育成に努めている。本検討委員会ではそれらを実現するために適した教育環境について答申を行うこととする。

まず、保幼小中が近い位置にあったことにより、校内のみならず、校種間の異年齢による交流が活発に行われ、それが心の育ちにつながってきたことから、保幼小中が近い位置にあることは重要だと考える。

つぎに、保幼小中が町の中心にあることから、地域住民は、学校行事に参加しやすく、また、役場や交番、消防署、高齢者の集まりや活動が行われている総合保健福祉センターも近くにあることから、多くの人と直接関わりを持つことができるといった機会にも恵まれている。

今後、連携の方法を工夫することにより、様々な交流がより一層促進される

ことが期待される。特に意識せずとも人と人との集える教育環境は田尻町の強みになっていくと考える。世代や職種を超えて多くの人と関わるということで、コミュニケーション力や社会性の向上も図ることができ、心豊かでたくましい「田尻の子」を育てていく上で重要だと考える。

安全面については、町の中心に位置することで、地域全体で子どもを見守ることができる。しかし、狭い町がゆえに通学路の歩道整備がされておらず、ガードレールも少ないため交通事故の心配がある。

また、災害面においても、南海トラフ地震による最悪の被害想定によると、保育所幼稚園では30cm～1m、中学校の一部が10～30cmくらい浸水する可能性があり、今後、土地の嵩上げや高層化により津波等をしのげる構造とするなど、災害対策を充分に行う必要があると考える。

災害面の不安等から駅上への移転という検討もなされたが、交通量の多い道路を通らないと登校できない事、町の中心や住宅地から大きく離れてしまう事による防犯上の課題などがある。そして、何よりも田尻町が大切にしてきた地域との交流が減退する可能性もあるとの議論がなされた。

なお、現在の教育環境においては、運動場が狭いなど敷地が狭いという問題は抱えているが、敷地の拡幅を徐々に行うなどの手法を取れば、現在目指している教育は実現可能ではないかとの議論もなされた。

これらの議論を踏まえ、本検討委員会では、田尻町の強みを活かすためにも、現地での建て替えが望ましいとの結論に至った。

来年度は教育カリキュラムをはじめとした教育の中身についての審議が予定されていることから、地域との連携といった社会教育の観点が重要であること等、各委員より多数の意見が出されている点については引き続き検討を行うものとする。